



## ハイブリッドインターフェイスの設定

管理対象デバイス上に論理ハイブリッドインターフェイスを設定することで、FireSIGHT システムは仮想ルータと仮想スイッチの間でトラフィックをブリッジできるようになります。仮想スイッチのインターフェイスで受信した IP トラフィックの宛先が、そのスイッチに関連付けられたハイブリッド論理インターフェイスの MAC アドレスとなっている場合、システムは、そのトラフィックをレイヤ 3 トラフィックとして処理し、宛先 IP アドレスに応じてトラフィックをルーティング(またはトラフィックに応答)します。それ以外の宛先が設定されたトラフィックを受信した場合、システムはそのトラフィックをレイヤ 2 トラフィックとして処理し、適切なスイッチングを行います。仮想管理対象デバイスや Blue Coat X-Series 向け Cisco NGIPS に論理ハイブリッドインターフェイスを設定することはできません。

ハイブリッドインターフェイスを設定する方法の詳細については、[論理ハイブリッドインターフェイスの追加\(9-1 ページ\)](#)を参照してください。

### 論理ハイブリッドインターフェイスの追加

ライセンス:Control

サポートされるデバイス:シリーズ 3

レイヤ 2 とレイヤ 3 の間でトラフィックを中継するには、論理ハイブリッドインターフェイスを仮想ルータと仮想スイッチに関連付ける必要があります。仮想スイッチに関連付けることができるハイブリッドインターフェイスは 1 つだけです。一方、仮想ルータには複数のハイブリッドインターフェイスを関連付けることができます。

論理ハイブリッドインターフェイスには、SFRP を設定することもできます。詳細については、[SFRP の設定\(7-9 ページ\)](#)を参照してください。


ハイブリッドインターフェイスの [ICMP 有効化応答 (ICMP Enable Responses)] オプションを無効にしても、すべてのシナリオで ICMP 応答が抑止されるわけではありません。アクセスコントロールポリシーにルールを追加して、宛先 IP がハイブリッドインターフェイスの IP で、プロトコルが ICMP であるパケットをドロップするように設定できます。[ネットワークベースのルールによるトラフィックの制御\(15-1 ページ\)](#)を参照してください。

管理対象デバイスの [ローカルルータ トラフィックの検査 (Inspect Local Router Traffic)] オプションを有効にした場合、パケットはホストに到達する前にドロップされるため、すべての応答を防ぐことができます。ローカルルータ トラフィックの検査の詳細については、[高度なデバイス設定について\(4-59 ページ\)](#)を参照してください。




## 注意




センシング インターフェイスまたはインライン セットの MTU の任意の値(シリーズ 2)または最高値(シリーズ 3)を変更すると、変更を適用する際、変更したインターフェイスだけではなく、デバイス上のすべてのセンシング インターフェイスに対するトラフィック インспекションが一時的に中断されます。この中断中にトラフィックがドロップされるか、それ以上インспекションが行われずに受け渡されるかは、管理対象デバイスのモデルおよびインターフェイスのタイプに応じて異なります。[Snort の再開によるトラフィックへの影響\(1-9 ページ\)](#)を参照してください。

既存のハイブリッド インターフェイスを編集するには、インターフェイスの横にある編集アイコン()をクリックします。

## 論理ハイブリッド インターフェイスを追加する方法:

アクセス:Admin/Network Admin

- 手順 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。  
[デバイス管理 (Device Management)] ページが表示されます。
- 手順 2 ハイブリッド インターフェイスを追加するデバイスの横にある編集アイコン()をクリックします。  
[インターフェイス (Interfaces)] タブが表示されます。
- 手順 3 [追加 (Add)] ドロップダウン メニューから、[論理インターフェイスの追加 (Add Logical Interface)] を選択します。  
[インターフェイスの追加 (Add Interface)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- 手順 4 [ハイブリッド (Hybrid)] をクリックして、ハイブリッド インターフェイス オプションを表示します。
- 手順 5 [名前 (Name)] フィールドに、インターフェイスの名前を入力します。英数字とスペースを使用できます。
- 手順 6 [仮想ルータ (Virtual Router)] ドロップダウン リストから既存の仮想ルータを選択し、[なし (None)] を選択するか、または [新規 (New)] を選択して新しい仮想ルータを追加します。  
新しい仮想ルータを追加する場合、ハイブリッド インターフェイスのセットアップが完了した後に、[デバイス管理 (Device Management)] ページ([デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [仮想ルータ (Virtual Router)]) で、その仮想ルータを設定する必要があることに注意してください。[仮想ルータの追加\(7-11 ページ\)](#)を参照してください。
- 手順 7 [仮想スイッチ (Virtual Switch)] ドロップダウン リストから既存の仮想スイッチを選択し、[なし (None)] を選択するか、または [新規 (New)] を選択して新しい仮想スイッチを追加します。  
新しい仮想スイッチを追加する場合、ハイブリッド インターフェイスのセットアップが完了した後に、[デバイス管理 (Device Management)] ページ([デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [仮想スイッチ (Virtual Switch)]) で、その仮想スイッチを設定する必要があることに注意してください。[仮想スイッチの追加\(6-7 ページ\)](#)を参照してください。
- 手順 8 ハイブリッド インターフェイスがトラフィックを処理できるようにするには、[有効化 (Enabled)] チェック ボックスをオンにします。  
このチェック ボックスをオフにすると、インターフェイスは無効になり、管理上はダウンした状態になります。

- 手順 9 [MTU] フィールドに最大伝送ユニット (MTU) を入力して、パケットの最大許容サイズを指定します。
- 設定可能な MTU の範囲は、FireSIGHT システムのデバイス モデルおよびインターフェイスのタイプによって異なる場合があります。詳細については、[管理対象デバイスの MTU の範囲 \(4-70 ページ\)](#) を参照してください。
- 手順 10 [ICMP] の横にある [応答を有効化 (Enable Responses)] チェック ボックスをオンにして、インターフェイスを ping や traceroute などの ICMP トラフィックに応答可能にします。
- 手順 11 [IPv6 NDP] の横にある [ルータ アドバタイズメントを有効化 (Enable Router Advertisement)] チェック ボックスをオンにして、インターフェイスがルータ アドバタイズメントを送信できるようにします。
- このオプションを選択できるのは、IPv6 アドレスを追加した場合のみです。
- 手順 12 IP アドレスを追加するには、[追加 (Add)] をクリックします。
- [IP アドレスの追加 (Add IP Address)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- 手順 13 [アドレス (Address)] フィールドに、IP アドレスとサブネット マスクを入力します。次の点に注意してください。
- ネットワークおよびブロードキャスト アドレス、またはスタティック MAC アドレス 00:00:00:00:00:00 および FF:FF:FF:FF:FF:FF は追加できません。
  - サブネット マスクに関係なく、仮想ルータのインターフェイスに同じ IP アドレスを追加できません。
- 手順 14 IPv6 アドレスがある場合、オプションで、[IPv6] フィールドの横にある [アドレスの自動設定 (Address Autoconfiguration)] チェック ボックスをオンにして、インターフェイスの IP アドレスを自動的に設定します。
- 手順 15 [種類 (Type)] には、[ノーマル (Normal)] または [SFRP] を選択します。
- SFRP オプションの詳細については [SFRP の設定 \(7-9 ページ\)](#) を参照してください。
- 手順 16 [OK] をクリックします。
- IP アドレスが追加されます。
- 
- 
- ヒント IP アドレスを編集するには、編集アイコン () をクリックします。IP アドレスを削除するには、削除アイコン () をクリックします。
- 
- 手順 17 [保存 (Save)] をクリックします。
- 論理ハイブリッドインターフェイスが追加されます。デバイス設定を適用するまで、変更は有効になりません。[デバイスへの変更の適用 \(4-27 ページ\)](#) を参照してください。

## 論理ハイブリッドインターフェイスの削除

ライセンス: Control

サポートされるデバイス: シリーズ 3

以下の手順で、論理ハイブリッドインターフェイスを削除する方法を説明します。

ハイブリッドインターフェイスを削除する方法:

アクセス:Admin/Network Admin

- 
- 手順 1 [デバイス(Devices)] > [デバイス管理(Device Management)] を選択します。  
[デバイス管理(Device Management)] ページが表示されます。
- 手順 2 論理ハイブリッドインターフェイスを削除するデバイスの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。  
デバイスの [インターフェイス(Interfaces)] タブが表示されます。
- 手順 3 削除する論理ハイブリッドインターフェイスの横にある削除アイコン(🗑)をクリックします。
- 手順 4 入力を求められた場合、インターフェイスを削除することを確認します。  
インターフェイスが削除されます。デバイス設定を適用するまで、変更は有効になりません。[デバイスへの変更の適用\(4-27 ページ\)](#)を参照してください。
-